



'73山陽放送杯自動車レース大会

11月4日 中山サーキット

11月4日の中山サーキットは、抜けるような秋晴れのもとで行なわれた。このレースは山陽放送でテレビ放映されると聞いて、エントラントは実に78台。さらにGCでおなじみの酒井正とミノルタ・マーチがデモンストレーションを行ない、レースにいっそう花をそえた。レースは2000クラス、Mクラス、FJ、1300クラスの4種目とレーシング・カートと40台によるレースも行なわれた。

山陽2000レース 30周 出走8台

予選は①宮田宗哲(サバンナ)と⑩政井武夫(サバンナ)がポールポジションを奪い合った。その結果、⑩政井が55秒6でポールポジションをとり、0.8秒差で①宮田がつづいた。①宮田は決勝レースにかけたが、スタート直後にトラブルを起こして早ばやとリタイ



向こうから⑩石崎、⑩高木。スタート直前。



コーナーをかすめる⑩河村ホンダZ。



⑩政井サバンナ。

主催=山陽スポーツランド

ア、敵のいなくなった⑩政井サバンナの独走でレースは終わった。

結果 1位 ⑩政井武夫(サバンナ) 30周
2位 ③小畑恒美(カベラ) 29周 3位 ⑤三木俊光(プレスト・ロータリー) 29周 4位 ⑥高須賀幹郎(プレスト・ロータリー) 27周 5位 ②渡辺清海(ブルーバード510) 24周。

山陽ミニカー・レース 50周 出走27台

ミニカーといっても360ccと500ccの2クラス混合レースである。360ccクラスにはDC C Sから①坂上安里と②柿沼義治のフェローMAXがエントリーしていた。ポールポジションは500ccの②瀬良健一(戸田Z II) 1分02秒0。①坂上MAXは予選3位にはいった。

②瀬良Zはスタートでつまづき、ピットクルーの押しがけによって戦列に加わったときはトップを走る予選2位の④青木健一郎(サンショップ・フロンテ)の直後を1周遅れでつづいた。青木は瀬良を2位と感違いして、ペースを上げながなが逃げの作戦をとる。

この2車は圧倒的なペースでレースをつづけていたが、25周めに④青木フロンテはコンロッドを折ってリタイア。しかし、瀬良Zはそのままのペースでレースをつづけ、38周めには、このとき1位を走る⑩河村好男(ホンダZ)をおびやかすところまでできていた。

レース終盤、②瀬良はトップに上がり、2大量に参加車を集めた1300レース。

位は⑩河村、3位に⑩松岡繁春(ホンダZ) 4位にMAXの②柿沼がつけていた。

けっきょくレースはこのままの順位でゴールしたが、トップの瀬良はスタート時の押しがけによって失格を宣告され、順位はそれぞれくり上がった。

結果 1位 ⑩河村好男(ホンダZ) 50周
2位 ⑩松岡繁春(ホンダZ) 50周 3位 ②柿沼義治(フェローMAX) 50周 4位 ①坂上安里(フェローMAX) 50周 5位 ⑩安原幸市(ホンダ) 50周 6位 ⑧平井政吉(ナカサカZ) 47周。

山陽フォーミュラカー・レース

30周 出走16台

フォーミュラが16台も集まり、激戦が予想された。予選1位は⑩石崎恒行(戸田RS-II) 54秒8。予選2位は⑩高木久男(ハヤシ706) 56秒0。強豪の⑩力身修(KE II)は予選周回数不足で最後部からのスタート。

⑩石崎と⑩高木がうまいスタートを切って第1コーナーに飛び込んでいった。注目されたのは⑩力身のものすごい追い上げだった。1周めに後続グループをことごとく抜き去り6番手に進出。10周めは2位を走る②桂雄二(戸田RS-II)の背後にせまる。この猛追に桂はエンジン・トラブルを誘発、リタイアしてしまった。これで⑩力身は2位にくり上がったが、スタート直後からトップを守っていた⑩石崎にせまるには、もう遅すぎた。

結果 1位 ⑩石崎恒行(戸田RS-II) 30周
2位 ⑩力身修(KE II) 30周 3位 ⑩高木久男(ハヤシ706) 30周 4位 ①水谷敬一(ベルコ96A) 30周 5位 ⑤川嶋功二(昭和石油RS-I) 30周 6位 ⑦岡野守(テプセンターSPL) 30周。

山陽1300レース 30周 出走27台

予選は⑦小河原金平(小山サニー)が57秒6でポールポジションをとった。2位は⑩牧本幹男(小山サニー) 57秒8。3位に②吉田義明(好日サニー) 58秒2といったところ。

決勝レースがはじまるころには西日が傾き山の長い影がサーキットに忍びよっていた。

好スタートを切ったのは⑩牧本だった。⑦小河原はちょっとつまづき、必死にスパートをかけたが、2周めの最終コーナーでコース

